

ほっかいどう

【特集】進めよう!一人一人の防災対策

「まさか」は必ずやってくる。 日頃からの備えが、いざというときの防災力を高めます。

災害から命を守ることができるのは、皆さん一人一人の心がけです。
家庭や地域で、防災についてできることを進めましょう。

避難のときに持って逃げる「非常持出品」と、災害後の生活を支える「非常備蓄品」に分けて用意しておきましょう。

非常持出品

- 貴重品
- 携帯ラジオ
- モバイルバッテリー
- 非常食・水
- 懐中電灯
- ヘルメット・防災ずきん
- 応急医薬品
- その他の生活用品

非常備蓄品

- 食料
- 水
- 燃料
- 生活用品
- 工具類

ほかにも非常用トイレやポータブルストーブを用意しておくで安心です。

▶防災に関する情報及び災害、気象、地震などの各種情報は **北海道防災情報**へ

北海道防災 検索

被災地域の復旧・復興とともに災害に強い地域づくりを進め、本道の強靱化を目指します。

北海道知事 **鈴木直道**

災害の教訓を防災対策に生かす

昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震から1年余りがたちました。この大規模災害を機に、皆さんはどんな防災対策を心がけるようになりましたか。

胆振東部地震では、道内がかつて経験したことのない最大震度7を観測し、大規模な土砂災害などによって多くの尊い命が失われました。また、ブラックアウトや断水などにより、暮らしや経済社会活動は大きな影響を受けました。もしも同じような災害が冬に起きていたとしたら、被害の深刻化は避けられなかったことでしょう。

道は、この災害の教訓を今後の防災対策に生かすため、専門家などで構成する「平成30年北海道胆振東部地震災害検証委員会」を昨年11月に設置し、被災地における聞き取り調査などの検証を行いました。



北海道胆振東部地震災害検証委員会

最終報告書から見えてきた課題

委員会がことし5月にまとめた災害検証報告書では、道民の防災意識に関する課題が改めて浮き彫りになりました。課題の一つは、自分の身は自分で守るという「自助」の意識です。「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、災害から命を守るための備えや避難行動を一人一人が取れるようにすること。そのためには、最低3日分、できれば1週間分の食料、飲料水、生活必需品の備蓄や非常用電源の確保も必要です。

さらに、地域の人たちが互いに助け合う「共助」の意識についても提言に盛り込まれました。高齢者など避難行動に支援を必要とする人たちに対して、地域住民が互いに連携し合う体制づくりが求められています。

こうした意識を徹底して地域の防災力を高めていくためには、住民参加型の避難訓練や、厳冬期の大規模災害を想定した防災訓練、地域や学校などでの防災教育が今後の課題といえます。

防災の心構え「いざはふだんなり」

委員会の座長として災害検証を進めてきた佐々木貴子教授(北海道教育大学札幌校)は、報告書の中で「いざはふだんなり」と提言しています。これは、「いざというときに発揮される力は、普段の生活の中で身に付いた力であり、その力は、不断に身に付けていかなければならない」という意味です。また、「もしも大地震が真冬に起きたならば、もしも停電が続いたならば…」と想像する心が大切だとも述べています。

道では、こうした災害検証の結果を今後の防災対策に役立てる取り組みを進めています。道民の皆さんは、「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、冬に起きるかもしれない大規模災害に備えて、何ができるかという当事者意識を持ち、家庭や地域でできる防災対策に取り組んでいただければ幸いです。詳しくは中面をご覧ください。

鈴木知事が 地域の取り組みなどを動く 動画でご覧いただけます

北海道庁インターネット放送局 検索

ほっかい家族

自分から雪かきするなんて珍しいな

災害に備えてこまめな除雪が大事なんだよ!

1日防災学校で習ったんだ!!

感心だなあ

けど...

先の中での避難経路を先に確保してほしいわ

北海道で必要な防災って? 詳しくは中面へ